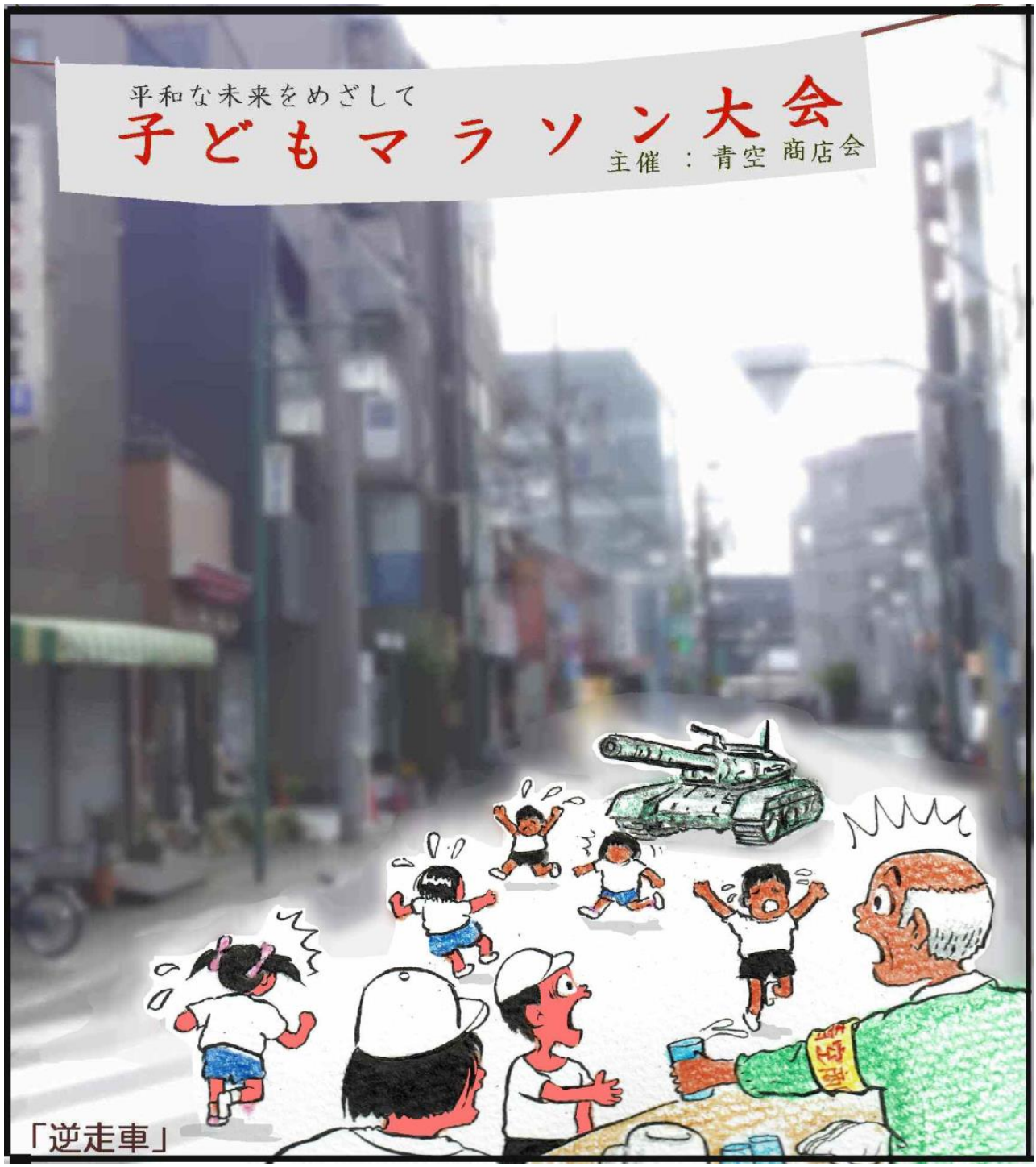
月刊 JMITU

ディスカ



10月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ　グループ分会　2024年発行

No,478

2024年 秋闘・年末一時回答

10月23日、私達労働組合（JMITU）の秋闘・年末一時金要求に対する、会社（セガ、SLS）からの回答がありました。

セガ回答

会社「年末一時金について、数字は検討中、支給日は、12月6日で調整中です。

過去にもお話ししましたが、夏季一時金の方に業績の還元分の月数をのせている。よほどのことがない限りは、冬の月数はいじらない。足元の状況は悪くない、基本的に今期は、下期に大きなタイトルを抱えている。メタファーは好調でその後のタイトル次第で通期の目標に対して超えていけるかが賞与に対する考え方、とはいえ制度改定で1ヵ月分は、月額給料になっている。

その他19項目会社の考え方は変わっていない、報酬制度を変えて報酬を引き上げている。従業員に対する今変えていかなければというところはない。一時金の数字に関しては、決算発表後に回答したい。」

組合「社員は報酬改定で賃金は上がっているが、非正規の時給アップについては、考えていないのか。」

会社「時給については、マーケット次第、当然その職種に合った相場の時給を払っている。低ければ人も集まらず、他に移られてしまうので、ちゃんと考えている。」

SLS回答

会社「年末一時金係数2．0支給日は12月1週の金曜日6日を予定。アルバイト時給今回賃上げをしている。率で言えば、社員以上の賃上げをしている。アルバイト、パート家族手当について、7月に子供手当として支給している。アルバイトの方も支給対象です。家賃補助についても、7月の報酬制度改定で、良くなっている、下がる方はいませんでした。」

組合「昇格試験について、合格点みたいなものが受けた側には知らされておらず、なぜ落ちたのかがわからないグレーな部分がある。基準みたいなものはないのか。」

会社「外部試験については、どういった評価だったか本人にフイードバックしている。

その他社内試験等についても何ができなかったか、分野別に上長より説明はしている。決して社内のハードルは高くない、落とすための試験でもない。」

セガ、SLS両社の回答について、私達労働組合としては、納得ができるものではないという事で、両社にストライキ通告をしました。

引き続き団体交渉で、要求実現へ向けて会社と交渉していきます。

掌編小説

補聴器

仙洞田一彦

月一回ほど劇場に足を運び、芝居を見ていた。ところが、だんだん芝居がつまらなくなった。その原因が自分の耳、聴力にあるらしいと気付いたのは大分経ってから。

セリフが十分に聞き取れないのだから、当然面白くない。聴力が落ちたと言っても、声が小さいから聞こえないというだけではない。声は聞こえても言葉として聞こえないのもある。音量だけでなく、どうやら周波数によって聞き分けられたり、分からなかったりということらしい。原因は老化現象だ。

聴力が衰えるとボケが早くなる。だから早く補聴器をつけた方がいいよと脅かされた。それからさらに半年か一年経った。だから相当ボケている、と言っても自分では分からない。

半年か、もっと前か忘れたが、メガネ屋の前に聴力検査無料という看板があったので検査してもらった。その時は聞こえたらボタンを押してくださいというような検査だった。音量だけだ。それでも大分聴力が落ちていますね、と言われた。

涼しくなったので耳鼻科に行った。耳鼻科の検査は違う。音量による検査もあったが、何と聞こえたか書いてくださいという検査があった。例えば「?」と聞こえる。私の頭は「ば」か「だ」か「ざ」かと、考え「ば」と聞こえたようなので「ば」と書く。本当は「ざ」かも知れなかったが、答えは分からない。他にもまちがいそうな文字がいくつも読まれた。その都度メモ用紙に書きつけていった。聞き分けの検査もするのだ。これが後で重要な役割をする。

それで補聴器屋さんに回る。補聴器は保険がきかない。病気ではないということだろう。だから治療ではない。

例のメガネ屋で値段を聞いていたが、改めて聞いて、やはり高いと思った。カタログで一番安いのが十万円、高いのが百万円だ。別のカタログには百四十万円というのもある。あんなに小さいものがと思ったが、デカかったら耳に入らない。

補聴器屋さんは細身、小柄の青年で黒っぽいスーツを着ていた。年齢は二十代半ばだろうか。私にとっては孫世代。

その第一日目。火曜日の夕方四時ごろからがいいというのでその時間に行った。病院に、その時間出張してくるようだ。値段を聞かれたから、

「一番安いもの」と、答えた。

「両耳に着けた方が良いですから」

耳が両側にあるから、音の方角や距離などが分かるのだろうからなるほどと思うが、計算する。十万円というのは片耳だ。高いのは両耳二百八十万円もすることになる。聞こえる、聞こえないも金次第。

とりあえず「お試しで」と、言いながら青年は、パソコンに向かってぶつぶつ言いなが

ら、独り言ではなく私に説明しているようだ。分かる言葉をつないでいくと、聴力検査のカーブを見ながら、補聴器を調整しているらしい。「すごい」と思った。「ば」か「ざ」か「だ」か、聞き分けられるようにしているらしい。

今はテレビが壊れているけど、その時はまだテレビが働いていた。早速試す。音量、ボリュームが六十だったのが二十か三十でも、分かるようになった。耳の異変を感じる前は、同じテレビで、音量二十で充分だった。補聴器の威力で、ほぼ以前の音量だ。

耳にかける型だから、メガネをかけたり、マスクをしたりするとき不便だ。それに今まで聞こえなかった音が聞こえるようになると疲れるのだ。だから、テレビを見る時、あつまりに参加するとき以外は外していた。

翌週火曜日夕方。

「どうでしたか。不便、不都合なことなどありましたか」

青年が聞いたから、メガネを掛けるとき不便なことを言ったが、テレビの音量が大幅に下がったことも言った。

「もっと安い外国製品がありますが試してみますか」

青年が言った。安いに越したことはないから「はい」と答えた。

「これは耳にかける部分も細くなっているので、メガネを掛けるのもあまり邪魔にならないかもしれません」

安いと言っても八万円くらいだった。両耳十六万円。

「それでは」と言って、先週のように、パソコンを使い調整したようだ。

いつものように病院を出て家まで歩いた。すごいとしか言いようがなかった。世の中にこんなに音があふれているのかと思った。車の音がする。思わず振り向いたけど、かなり距離があった。最近の車はエンジン音がしないので、後から来た車に気付かず、怖い思いをすることがあった。この補聴器ならその心配はなさそうだ。会話が聞こえる。道路の向こう側の二人連れだ。何の音か分からない音も聞こえてくる。これは補聴器自身が発生する雑音か。電車線路から大分離れているが電車の音も聞こえる。

絶えず聞こえる音がスーパーに入ったら消えた。ということは補聴器の雑音ではなく、建物の外の雑音ということだ。話し掛けられたと思って振り向いたら、棚のずっと向こうにいる人が他の人を呼んだのだ。

買い物を終え、家に着いたらがっくり、真っ先に補聴器を外した。

まわりの音がすべて押し寄せてくる感じで疲れる。次の火曜日まで、ほとんど耳に付けなかった。こんなに聞こえるなら、あやしい二人連れの後をつけて、その会話を盗み聞きすることさえできそうだ。性能のすごさは感じたが使う気になれない。

翌々週火曜日夕方。青年に言った。

「これは聞こえすぎるので、先週のにして」と言った。

「そうですか」と青年は答えて「もう一度試してみましょう」と、言った。
　そして手元にある昔の筆箱くらいの大きさの小箱の中を探し、右用と左用の補聴器を取り出した。
「いま、右左、同じものが揃わないんですけど」
　たしかに、ほんの少ししか違わない。言われなければ違いがわからないくらい。
「右が十万円で、左が十三万円です。両方とも同じになるように調整しておきました」
　青年は立ち上がると、私の右耳と左の耳に装着した。
「来週は、ご希望の製品を用意しておきます」
　青年が言った。
「お願いします」
　私は言って病院を出た。先週のと違って、聞こえ過ぎはない。だが、引っかかった。十万円のものと十三万円のものが調整で合わせられるのなら、何も高い金を出す必要はないだろうと思ったのだ。しかし、高い値段の方の性能を落として安い値段の方に合わせることはできるが、その逆はないということか。しかし、もやもやが残った。
　慣れが必要だというので、外に出る時は付けるようにしたが、落としたら自己負担なので、心配にもなった。
　翌翌々週の火曜日の夕方。概ね良好だから、この製品を買おうと思った。
　いつもの部屋に入った。この部屋のドアは開けっ放しである。
「えーとですね、十万円のものは故障が多いらしいんです。本社の方から急に言われましてね。それで、お勧めしない方がいいということなんです。私も知らなかったんです。十二万円のものを一万円値引きさせていただくわけには行かないでしょうか」
　青年が言う。一万円、両方で二万円上がる。何度も通うと面倒くささもあって了解した。すると、すでに新品が用意してあって、二十二万円の請求書を受け取って帰った。
　補聴器をつけて商店街を歩いていたが、色々考えが巡って、音など耳に入らなかった。あの安い外国製は確か調整して渡してくれた。音が入りすぎて疲れる。なら、感度を落とす調整はできないんだろうかと思った。それを聞くべきだったか。あれは高い補聴器に誘導させるために、あんなにうるさく聞こえるようにしたのか。そして、今日は、十万円のものは故障が多い機種だと知らされた。本当かよう。そう言われたら十万円のを買いますとは言いにくい。さらに一万円、両耳で二万円高くなってしまった。私を見て、こいつだったら十一万円、左右で二十二万円がいい線か、などと値踏みされ「調整」されたのか。安くない、余生への投資だ。
「ばかやろう」
　プラス二万円、たしかによく聞こえた。怒鳴られて足が止まった。考え事をしていて道の真ん中を歩いていたようだ。自転車が私をかわし、走り抜けて行った。